

日本共産党 日立市議団ニュース

No. 42 2004年10月21日

発行 日本共産党日立市議団
連絡先 日本共産党北部地区委員会
日立市石名坂町 1525-21/ (53)8501



小林真美子
(21)4919



大曾根勝正
(52)1570

ご相談はお気軽にどうぞ

日立電鉄線 新しい動きに積極支援を！

存続させる会が県に要請

「日立電鉄線を存続させる会」(五十嵐武夫、小野瀬文雄代表)は15日、橋本昌知事あてに市民出資の鉄道事業の受け皿会社設立など存続にむけた新しい取り組みへの支援を要請しました。日本共産党の大内久美子県議、大曾根勝正、小林真美子日立市議らが同席しました。

小野瀬代表らは、市民運動による新会社設立、岡山県内で路面電車を運行している岡山電気軌道が運行支援を申し出るなどの新しい動きがはじまっていることをあげ、積極的支援を要請しました。

具体的には 県が中心になった存続のための利用者団体や市民も参加した対策協議会の設置 電鉄線を公共交通機関と位置付け、上下分離方式(運行と鉄道資産を分ける)を採用し、鉄道施設は県が資産譲渡を受ける 市民団体と県、日立市、常陸太田市が出資する「第四セクター」方式による新会社設立への努力 岡山電気軌道参入への積極的な支援 鉄道再生プラン(運行本数、駅との連携バスの運行、駐車場などの整備)を対策協議会でつくる をあげました。

対応した室町正男企画部副参事は「両市の判断を尊重するのが県の態度」としたうえで、「岡山電気軌道にもでかけ、先方からの公的支援額の試算を受け取りそれを精査中。日立市、常陸太田市とも協議したい」と答えました。



日立市、常陸太田市にも要請

「日立電鉄線を存続させる会」は、日立市、常陸太田市にも要請しました。

日立市の根本茂助役は「電鉄線廃止はやむなしが市の判断」としながらも、市民が新会社設立し岡山電気軌道が運行する方式について「それも一つの方法だろう」との認識を示しました。

常陸太田市の萩谷総務部長は「(市民の新会社設立、岡山電気軌道の動きに)期待したい」としたうえで、日立電鉄線の日立市内の営業距離(13^{km})にみあった「日立市の支援があれば」とのべ、「皆さんの要請内容は市長に伝えたい」と語りました。(以上「しんぶん赤旗」10/16より)

.....

日立市では根本助役と豊田課長が対応しました。冒頭、日立電鉄松場社長が読売新聞(10月6日)で、代替バスについて「不採算なら縮小も」と言っていることに対して、市民から「10月の市報で廃線後は代替バスで責任持ってやっていくといいながら、無責任だ」という不信の声があがっていることを紹介。豊田課長は、「電鉄に問い合わせたところ、『見出しが社長の真意と違っていると抗議した』と言っていました。あとで読売新聞関係者に聞いたところ、「抗議・・・?『あの記事は誰が書いたのか?見出しがオーバーでは』との問い合わせはありましたけど」とのことでした。

私は記事を読み直して、「電鉄の本音そのものだ。見出しも、社長の言い分を正確に表現している」と思いました。日立電鉄の意向に沿って動いているのが、いまの日立市の行政と言わざるを得ません。最近おこなった「市民アンケート」の結果は、「廃線するな」が多くの市民の声であることを改めて示しました。運動をもうひとまわり大きくして、日立市の姿勢を改めさせることが必要になっていると思います。

(大曾根勝正 記)

日本共産党議員団

岡山電気軌道を視察

日本共産党の大内県議、大曾根、小林市議は、13日、未来クラブの伊藤、石井市議の視察に同行し、岡山市の岡山電気軌道、磯野省吾常務締役と懇談しました。

磯野常務は「岡山電気軌道が支援すれば、市民出資の新会社で存続できます」と激励しました。



日本共産党北部地区委員会ホームページは <http://www.jcp-net.jp/ibahoku> です。「日立市議団ニュース」のバックナンバーもご覧いただけます。ご意見、ご感想をお寄せ下さい。